令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立東中浜小　　学校	児童数	537

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
男子	14.59	18.50	42.93	31.91	49.00	9.55	154.63	19.02	51.92
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	14.82	18.00	43.54	31.90	36.00	9.93	138.11	12.18	51.71
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

今年度の調査結果では、体力合計点が男女ともに全国平均をわずかに下回る結果となった。種目別に詳しく分析すると、特に「ソフトボール投げ」などの投力や「50m走」といった走力において、全国平均との差が見られ、これらの基礎体力の向上が本校の課題となっている。また、意識面においても、児童への質問調査では、「運動やスポーツが好き」と答えた児童の割合は、男子が91.5%（全国93.4%）、女子が82.7%（全国85.8%）となっており、男女ともに全国平均を下回っています。このことから、体力向上とともに、いかに運動の楽しさを伝えていくいかが本校の検討事項であると捉えています。こうした意識面で課題がある一方で、本校児童の「運動習慣」については良好な数値を示している。1週間の総運動時間が60分に満たない児童の割合は、男子8.6%（全国9.8%）、女子13.3%（全国17.3%）にとどまり、全国や大阪市平均よりも「運動不足の児童が少ない」という結果が得られた。このことは、本校の児童が「運動への苦手意識や抵抗感がある子もいるものの、日常生活の中では意欲的に、かつ長時間体を動かしている」という考えられる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

本校ではこれまで、日常的な外遊びの奨励に加え、「なわとび週間」や「かけ足週間」といった重点的な体力作りの期間を設定し、全校を挙げて運動に親しむ環境づくりに取り組んできた。さらに、天候に左右されず室内でも脳と体を活性化させることができる「シナプソロジー」を導入するなど、多様なアプローチを継続してきた結果、児童が場所や状況を問わず積極的に体を動かす生活リズムが確立された。こうした啓発行動により、児童一人ひとりの運動習慣が着実に定着したことは、本校における教育活動の成果といえる。一方で、今後の課題になったのが、児童の「運動に対する主観的な意識」の向上である。アンケート結果では、運動を「好き・やや好き」と肯定的に捉えている児童の割合が、男子91.5%、女子82.7%と、いずれも全国平均（男子93.4%、女子85.8%）をわずかに下回る結果となっている。これまでの取り組みで「運動の場や時間」は十分に確保できたが、今後はさらに、児童が「自分自身から運動する楽しさ」や「技を習得した際の達成感」を実感できるような指導の工夫に取り組んでいく。これからも個々の興味関心に応じた運動種目の提示や小さな「できた」を積み重ねるスモールステップでの目標設定を行うことで、受動的な活動から、自ら進んで楽しむ主体的な運動への転換を図っていき、児童が運動を通じて自信を深め、心身ともに健やかな成長をサポートしていく。